

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 11 年 11 月

～タイの洪水の影響で生産計画から大きく 下振れ

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. タイの洪水の影響で 11 月の生産は予想を大幅に下回る

経済産業省が 12 月 28 日に公表した鉱工業指数によると、11 月の鉱工業生産指数は前月比▲2.6%と 2 ヶ月ぶりに低下し、事前の市場予想 (QUICK 集計: ▲0.7%、当社予想は同▲1.6%) を大きく下回った。出荷指数は前月比▲1.5%と 2 ヶ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲0.8%と 2 ヶ月ぶりの低下となった。

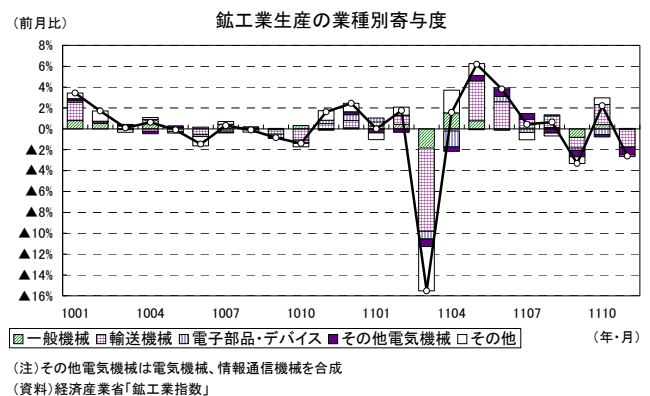
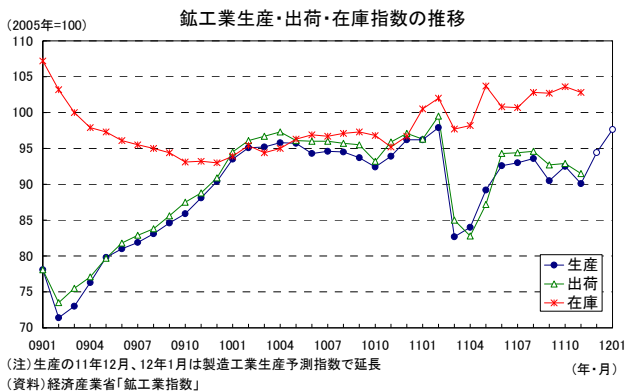
11 月の生産を業種別に見ると、タイの洪水による影響を強く受けた輸送機械 (前月比▲9.5%)、情報通信機械 (前月比▲23.7%) の落ち込み幅が極めて大きく、この 2 業種だけで 11 月の生産全体の落ち込みを説明できる。

輸送機械は先月発表された予測調査 (調査時点は 11/10) では前月比 0.1%とほぼ横ばいの計画だったが、実績値はこれを大きく下振れた (実現率▲11.0%)。筆者は先月の結果をもとに自動車に関してはタイの洪水による影響が限定的と判断していたが、この見方は楽観的すぎた。

また、情報通信機械は先月の予測調査でも前月比▲14.1%の大幅減産が見込まれていたが、実績値はこれをさらに大きく下回った (実現率▲10.4%)。情報通信機械の下振れは、タイの洪水による部品不足に、地上デジタル放送移行前の駆け込み需要の反動から液晶テレビの国内販売が大きく落ち込んでいることが重なったことによるものと考えられる。

輸送機械、情報通信機械以外の業種についてはまだら模様となっており、タイの洪水の影響を強く受けた 2 業種以外については一定の底堅さを維持している。

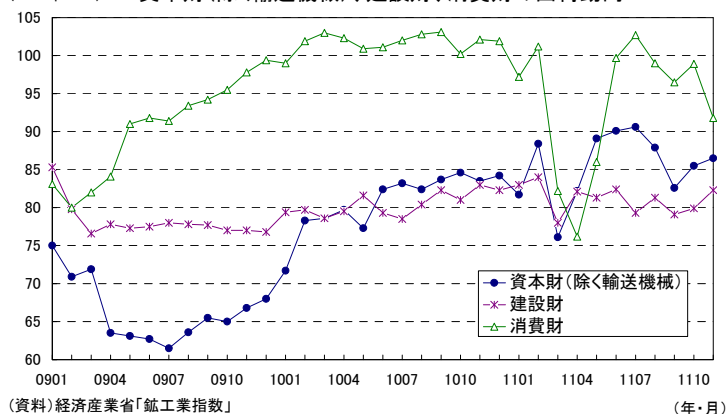
速報段階で公表される 16 業種中、8 業種が前月比で上昇、8 業種が低下となった。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は7-9月期の前期比▲0.1%の後、10月が前月比3.5%、11月が同0.9%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は7-9月期の前期比▲2.4%の後、10月が前月比1.0%、11月が同3.0%となった。7-9月期のGDP統計の設備投資は1次速報では前期比1.1%と4四半期ぶりの増加となっていたが、2次速報では前期比▲0.4%へと下方修正された。現時点では、10-12月期の設備投資は復旧投資を主因として5四半期ぶりに増加に転じると予想しているが、海外経済の減速を背景とした輸出の低迷によって企業収益が下振れしているため、設備投資の伸びは当面は緩やかなものにとどまる可能性が高い。

7-9月期に前期比13.9%の高い伸びとなった消費財出荷指数は10月の前月比2.5%の後、11月は同▲7.2%となった。特に耐久消費財が前月比▲11.6%と急速に落ち込んだ。GDP統計の個人消費は7-9月期には前期比0.7%と比較的高い伸びとなったが、10-12月期は小幅なマイナスになると予想している。

(2005年=100) 資本財(除く輸送機械)、建設財、消費財の出荷動向

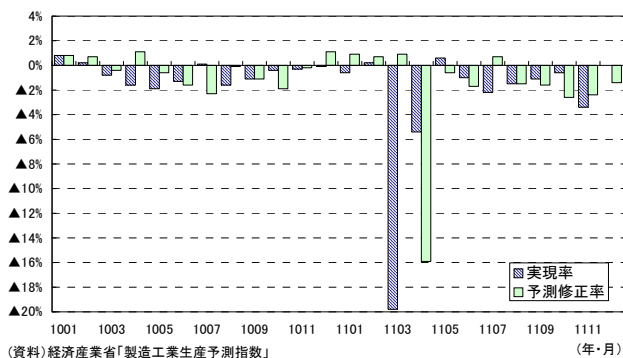


2. 当面は横ばい圏の動きが続く見込み

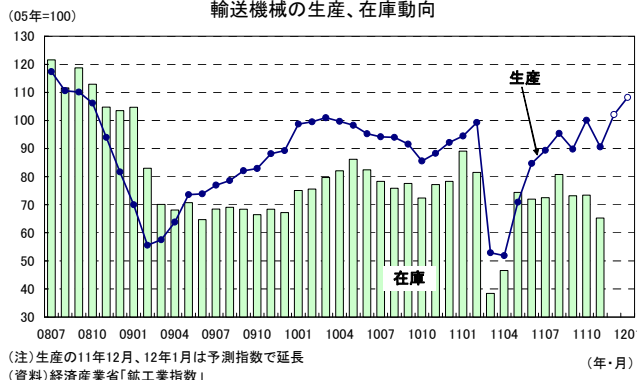
製造工業生産予測指数は、12月が前月比4.8%、12年1月が同3.4%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（11月）、予測修正率（12月）はそれぞれ▲3.4%、▲1.4%であった。

業種別には、タイの洪水の影響で11月に前月比▲9.5%と急速に落ち込んだ輸送機械は、12月が前月比12.7%、12年1月が同6.0%となっている。この計画が実現すれば、11月の落ち込みを1ヵ月で取り戻すことにより輸送機械の生産水準は12月には再び震災前（11年2月）の水準を上回ることになる。11月の輸送機械の出荷指数は前月比▲2.4%と生産に比べて落ち込み幅は小さく、在庫指数は前月比▲11.0%と大幅に低下している。このことは11月の大幅減産が最終需要の落ち込みによるものではなく、あくまでもタイの洪水に伴う供給制約から生じていることを示している。タイの洪水は収束に向かいつつあるため、12月以降は再び増産基調に復帰する可能性が高い。

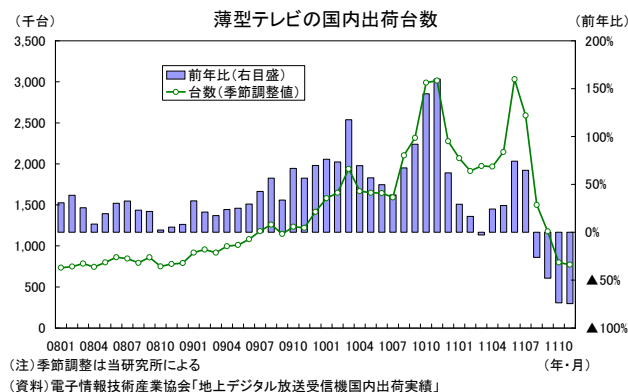
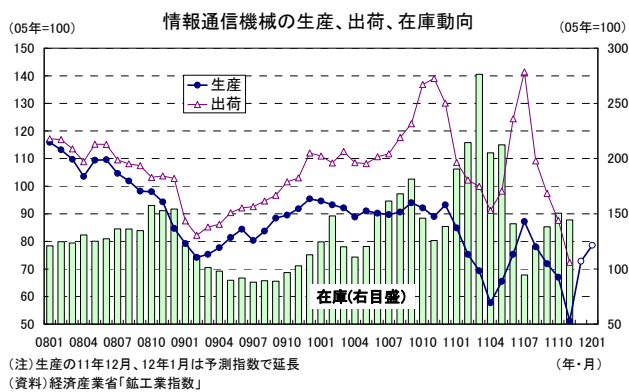
最近の実現率、予測修正率の推移



輸送機械の生産、在庫動向



一方、情報通信機械は12月が前月比42.5%、12年1月が同7.9%と大幅増産計画となっているが、同業種はタイの洪水による影響だけでなく、国内販売低迷の影響も強く受けているため、出荷の急激な落ち込みが続いており、在庫水準も高止まりしている。12月以降の生産実績は現時点の計画から下振れる可能性が高いだろう。



11月の生産指数を12月の予測指数で先延ばしすると、10-12月期の鉱工業生産は前期比▲0.1%となる。先月時点では10-12月期の生産は前期比で小幅な増加になるとみていたが、タイの洪水の影響によりほぼ横ばいにとどまる可能性が高くなった。

タイの洪水は収束に向かいつつあるため、12月以降は洪水による落ち込みの反動増も期待できる。しかし、円高、海外経済減速に伴う輸出の低迷が下押し圧力となるため、生産は当面横ばい圏の動きが続くことが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。